

令和元年度 第3回デ活シンポジウム

「企業も強くなる 首都圏も強くなる

～首都圏を襲う台風災害の怖さを改めて学ぶ～

日時 2019年12月16日(月) 14:00～17:00

場所 都道府県会館 1F 101大会議室

挨拶

平田 直(防災科研 首都圏レジリエンスプロジェクト総括)

首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクトは、5カ年プロジェクトの3年目を終えようとしています。レジリエンスという言葉は、最初は聞き慣れない方もいたと思います。アメリカでこの12月に開催された学会(AGU)でも Science to Action というセッションがありました。そこでは、「私たちにあってレジリエンスとは何か」という議論がされていて、建築の方のレジリエンスもあれば、社会活動やソーシャルキャパシティを上げるような活動をしている方のレジリエンスなど、さまざまなレジリエンスがあることがよく分かりました。

私は元々地震を中心に研究していたので、地震災害に対するレジリエンスとは何かというのがこのプロジェクトの中心的な課題でした。ところが今日は台風の話を中心に持ってきました。今年度2回目のデ活シンポの私の挨拶の中では、無理に台風15号の話を入れてしまい全体のバランスが崩れたのですが、今日は最初から最後まで台風です。地震の話はあまり出てきません。

私は宗旨替えをして課題を台風に変えたわけではありません。自然災害というのは地震や火山、台風、豪雨、豪雪などさまざまですが、それによって被害が発生して社会が影響を受け、応急対応から復旧・復興をするというプロセスは、実は原因が地震である場合も台風である場合も共通しているところが多いのです。今年の台風19号では、関東から始まり、非常に広い範囲で災害が発生しました。大きな自然災害が起きると非常に広い範囲で同時多発的にさまざまな災害が起こるということを私たちは身に染みて経験しました。

首都圏でもしマグニチュード7のような大きな地震が起こると、強く揺れる面積は東京都や横浜、千葉ぐらいでそんなに広くないかもしれません。しかし、首都の機能は日本中にさまざまな影響を与えているため、首都がやられると日本中の機能が維持できなくなることが予想されています。従って、首都圏の地震災害を考えるときには広域の被害についても考えることが重要だと思います。そこで今回はあえて台風災害を中心に据えて、さまざまな観点から議論をしていただきたいと思います。もちろん自然災害の原因は地震と風水害では違うので、そ

の辺も今日は少し議論があると思いますが、まずは広い範囲が被害を受けたときに、それを正しく認識し、そして実際に被害がどうなっているかという現状を把握し、認識を統一するところから始めて、どうすれば災害に対応できるかというところまでをぜひ皆さんと考えていければと思います。

私たちのスローガンは「企業も強くなる 首都圏も強くなる」であると申し上げています。企業が企業活動を続けられなければ災害に対応できなくなるという意味で、強くなることは重要です。ぜひこのスローガンに沿ったような形で皆さまの話をお聞かせいただければと思います。